

「今月の1枚」

モクレン (シモクレン) *Magnolia quinquepeta*



写真1 シモクレン 2017年4月2日 愛媛県今治市

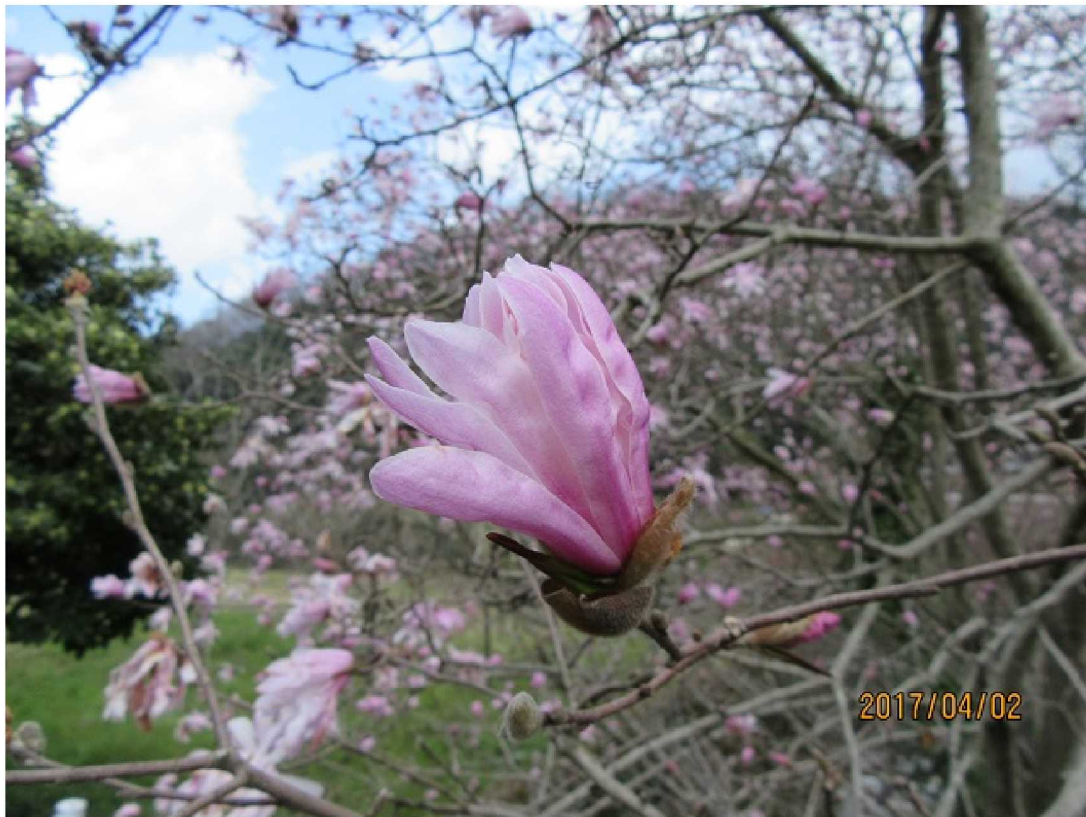


写真2 シモクレンの花 2017年4月2日 愛媛県今治市

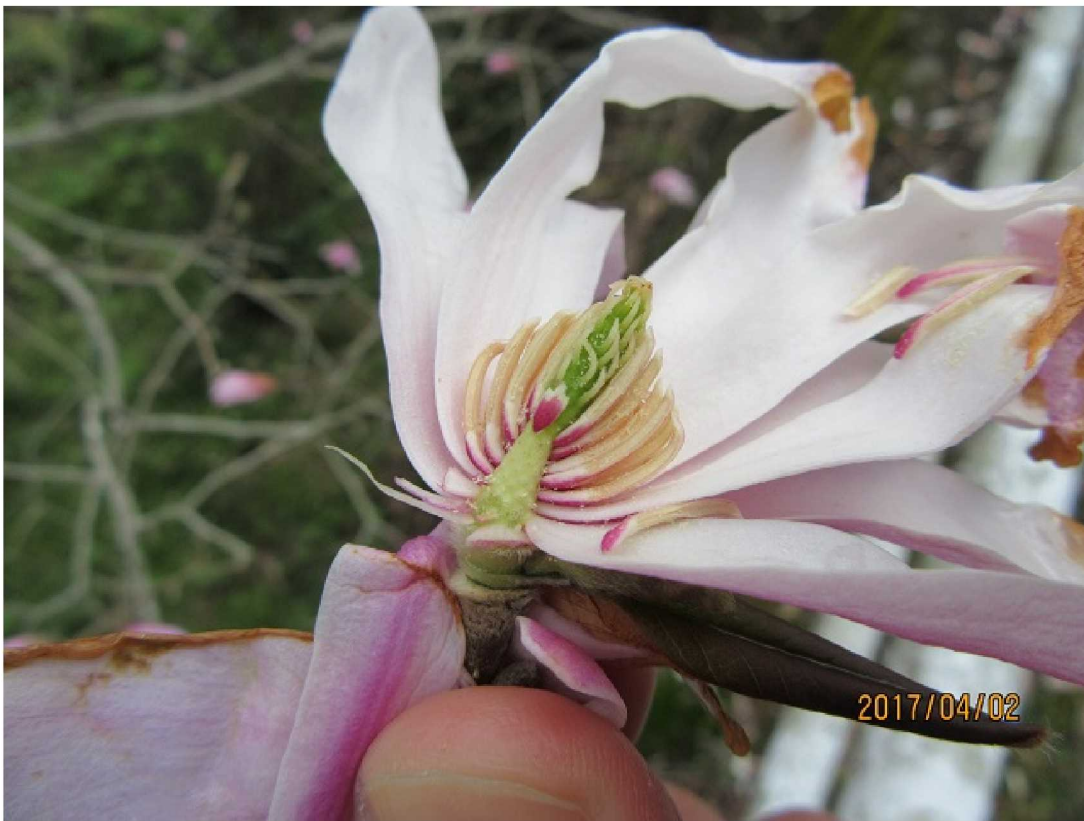


写真3 シモクレンの花の構造 2017年4月2日 愛媛県今治市



写真4 シモクレンの実 2016年10月6日 高知県大豊町立川PA

(写真1) サクラが満開と思って近づいたら大きなシモクレンでした。中国原産の花木で、シモクレンの「シ」は紫のようですが、花は赤みが薄いものから濃いものまで様々あるようです。

(写真3) 花の構造(花弁を半分取り除いた)。軸の周りに平べったい雄蕊(雄しべ)がらせん状に重なり、その上に雌蕊(雌しべ、針のように見えるもの)があります。このような花の構造は原始的で白亜紀ころからすでに出現していたとされています。四国には野生のMagnolia属としてホオノキ、タムシバ、オオヤマレンゲがあります。

(写真4) 実が熟するとこんな形。受粉すると雌しべの根元部分が膨らみ、裂開してオレンジ色の果実がのぞきます。果実は鳥に食べられ中の種子は遠くに散布されます。しかし、シモクレンが野生で増えることはあまりないようです。

写真・文：酒井敦

(No.268 2017.4.17 掲載)